

## まえがき

ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム (Software Engineering Symposium : SES) は、情報処理学会ソフトウェア工学研究会が主催するフラグシップイベントとして 2006 年から毎年 1 回開催されており、2020 年で 15 回目を迎える。今回は、2020 年 9 月 10 日から 9 月 12 日までの 3 日間にわたり開催される。株式会社日立製作所 横浜研究所での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、オンライン開催に変更した。

ソフトウェア工学は総合的かつ実践的な学問分野であるため、基礎技術の研究と技術の実践を独立して実施しては十分な成果や発展は望めない。研究者・実務者が密に連携し、理論に基づくソフトウェア開発の基本原則と、事例研究に基づく実証経験を統合した、ソフトウェア開発現場で実践可能な技術の確立が望まれている。

さらに、社会におけるソフトウェアの重要性はますます高くなっており、ソフトウェア的な視点から社会基盤やビジネスを設計する機会も確実に増加している。また、人工知能、ビッグデータ、IoT、ブロックチェーンなどの技術を活用する新しいソフトウェアの開発も求められている。このような状況に対応するために、これまでのソフトウェア工学領域での努力の継続だけでなく、ソフトウェア工学という領域の拡大が望まれている。

このような観点から、SES 2020 では、ソフトウェア工学に関係する多様な技術分野に関して産学の研究者・技術者・実務者間で活発な議論をできる場を提供することを目的として、研究論文と実践論文の 2 つのカテゴリでシンポジウム論文を募集した。研究論文はこれまでと同様に独創的な研究の成果を発表するものとして新規性を重視した論文、実践論文はソフトウェア工学の実践事例や経験から得られた知見を発表するものとして有用性を重視した論文である。

シンポジウム論文には 23 件の投稿があり、そのうち研究論文は 18 件、実践論文は 5 件であった。これらの論文に対しては、利害関係を持たない 3 名のプログラム委員による並列査読を行い、その結果をプログラム委員会にて議論した結果、13 件の研究論文、5 件の実践論文を採択した。プログラム編成にあたっては、これらの中でも新規性、有用性、正確性の 3 つの観点から優れていると判断された 5 件の研究論文、1 件の実践論文をロング発表として選定し、他の発表論文よりも長い発表時間を割り当てている。

本シンポジウムでは、これらの論文発表に加え、基調講演に、情報処理推進機構 社会基盤センターアーキテクチャ設計部 副部長の河野孝史氏と、株式会社日立製作所 IT デジタル統括本部 グローバルソリューション第 2 本部 本部長の武藤彰久氏をお迎えした。河野氏にはアーキテクチャ設計力の強化、武藤氏には大規模テレワーク環境整備に関してご講演いただくことになっている。さらに、国際会議や論文誌で発表された最新の研究成果について、それぞれの著者に内容をご紹介頂く既発表論文セッションも企画しており、13 件の発表が行われる。誰でも最新成果を発表することのできる環境として、一般論文およびポスター展示に関する投稿は 2019 年度に引き続き盛況であり、一般論文 9 件、ポスター展示 18 件（論文あり 4 件と論文なし 14 件）の発表が行われる。また、多様なキャリアを持つソフトウェア工学研究者・実務者にキャリア開発についてご講演いただく、ソフトウェア工学キャリアトークを企画した。ワークショップに関しては、昨年に引き続きテーマを設定した議論の場として討論テーマを公募し、6 件を開催することになっている。

基調講演、論文発表、ポスター展示、ワークショップなど、多種多様な場での活発な議論を通して、研究者、技術者、実務者の交流がますます盛んになり、今後の研究や実践において密に連携していくきっかけが生まれることを強く期待する。

最後に、情報処理学会ソフトウェア工学研究会運営委員、情報処理学会事務局、本シンポジウムの企画、論文査読、その他さまざまな準備作業に関わってこられた各委員長、プログラム委員、ワークショップ討論リーダーをはじめとする皆様に深く感謝する。

SES 2020 プログラム委員長	吉田 則裕
SES 2020 副プログラム委員長	横川 智教
SES 2020 実行委員長	小川 秀人